

私立 神戸常盤大学 神戸常盤大学短期大学部

取組名称 **神戸常盤発！元気の出るキャリアガイドシステムの構築**

取組担当者 **学長 上田 國寛**

1. 本学の概要

「女子ニ必須ナル智識技能ヲ授ケ、質実健全ナル母妻ヲ養成スルヲ目的トスル」という趣意のもと、1908(明治41)年に私立家政女学校が学校法人玉田学園により創設された。

1967(昭和42)年の創立60周年を機に、神戸常盤短期大学を開学し、実学を重んじる建学の精神に基づき、一万人を超える卒業生を輩出してきた。

優れた専門的知識・技能を持ち、実践力あるスペシャリストとして社会に貢献できる人材の養成を目指して、前身の神戸常盤短期大学の頃より改組転換を重ね、学園創立100周年を迎えた2008(平成20年)に神戸常盤大学と併設の神戸常盤大学短期大学部を設置し、今日に至っている。

現在は、神戸常盤大学に保健科学部(医療検査学科、看護学科)、神戸常盤大学短期大学部に3年制の口腔保健学科と2年制の幼児教育学科、全国で唯一の2年制の看護学科通信制課程で構成されており、約1,750名(通信制課程の学生を含む)の学生が学んでいる。

小さな大学であることを最大限に生かし、学内の全ての人たちの密なるコミュニケーションが、ふれあいを重んじる人間愛に満ちた教育を展開し、広く深く学ぶ楽しさを互いの向上心へと繋げ、一人ひとりの「いのち」を支えるスペシャリストとして大切に育成していくことを目指している。

2. 本取組の概要

職業の専門性に対する学生の意識低下が目につく中で、社会的には高度な専門性や細分化された知識や能力が求められている。この大きなギャップに対し、柔軟性を持ち、自らの力と意思で活路を切り開くことのできる学生の輩出を目指し、キャリアガイドシステムを構築する。

学生は、入学当初よりキャリアガイドセミナーやキャリアガイダンスを通じて、多様な分野で活躍する卒

業生及び専門職業人、有識者等の知識や経験に触れることができる。これにより自らの中にある可能性に気づき、将来の展望について目的意識を持つことで、学生生活を意欲的に営み、学習に対しても高いモチベーションを保つことができる。

卒業生は、キャリアサポーターとして外部から本取組を支援し、求人状況等の情報提供のみならず、自身の経験や知識を後輩に伝える重要な役割を担う。

教職員とキャリアサポーターが一体となり、キャリアガイドシステムを構築することにより、学生に対する効果的なPDCAサイクルを確立する。



図1 キャリアガイドシステム概要

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本取組の趣旨・目的

本取組により、学生が自発的・意欲的に進路決定を行い、現在の厳しい医療・福祉・教育現場でも専門職として高い意識と誇りを持って、元気に社会に貢献することのできる人材となることを目指す。

従来より行ってきた求人案内型の就職支援体制ではなく、自分自身で描いた将来像を自らの力で形にすることのできる学生の輩出を可能にするキャリアガイドシステムを構築し、就職支援体制を継続的に改善・充実させていく。

(2) 本取組の達成目標

学生自身が専門職へ向けて将来像を明確にし、学生生活・就職活動・資格取得に取り組む意識の向上を目

標とする。

これまで実績の少なかった業種・地域への就職の決定等、進路の幅が拡大することを目指す。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 多くの知識・経験に触れ、自ら考える

専門職業人として多種多様な業種・職種で活躍する本学の卒業生及び専門職業人、有識者を講師に招き、キャリアガイドセミナーやキャリアガイダンスを開催する。これらの中で専門職としての知識や経験に触れることで、日々の学習の中での自身の将来像や課題意識を一層明確にすることができる。

(i) 「OB・OG懇談会」

学生が自らの進路について考える機会として「OB・OG懇談会」を実施する。

様々な分野で活躍している卒業生の講演を聞くことで、就職に対する意識はもちろん、専門職としての意識についても向上させ、日々の学生生活のモチベーションを高めることを目的としている。

なお、専門職ごとに対象となる学生が異なるため、学科単位で実施する。

医療検査学科は、今年度2度実施しており、病院、健診センター、医療系企業で勤務する臨床検査技師の他に、治験コーディネーターや自ら卒後キャリアアップし臨床工学技士として活躍している計9名の卒業生が参加した。

同じ資格を取得していても、異なった業種で活躍している多数の卒業生の話を直接聞くことで、自らの中にある可能性に気づくことができ、自身の将来の展望を広げることができる。



写真1 個別懇談をする学生

看護学科は、病院に勤務する卒業生の看護師の他に、近隣の自治体で勤務する保健師、病院に勤務する助産師、公立小学校に勤務する養護教諭等、卒業生以外にも学生の将来の進路について幅広い展望を提示することができる計5名の専門職の方々を講師として招いた。

それぞれの現場での仕事内容、その職種を選択したきっかけとその道のり、在学中の学習方法等を直接聞くことで、就職と進路についての具体的なイメージを深めることができる。

幼児教育学科は、幼稚園、保育所、児童福祉施設に勤務する幼稚園教諭、保育士の卒業生計5名が参加した。

進路によって異なる求められる資質や、就職試験対策、学生生活のアドバイス等、将来の目標であり身近な存在である卒業生から話を聞くことで、行動を起こすきっかけ、意欲の向上につながる。



写真2 全体会の様子

各学科の最上級学年を主な対象としているが、低学年からの参加も見られるなど、自発的・意欲的に学生自ら進路決定について考える姿勢を見ることができた。

(ii) 「臨床検査技師の話聞く会」

地域の医療現場で活躍する臨床検査技師の中で、職員を束ね、指導する立場である方々（技師長）を招いての講演会を行った。

現場では知識や技術だけではなく、社会人としてのコミュニケーション能力や向上心が不可欠であり、責任ある社会人となることを念頭に置いて今後の就職活動に取り組んでもらいたいなどの「OB・OG懇談会」とは異なり、管理者の立場ならではの話を聞くことができた。採用を直接担当しているわけではないが、その状況について具体的な情報を得ることができた。

(iii) 合同セミナー

口腔保健学科及び幼児教育学科を対象とした「関係機関等説明会」、医療検査学科及び看護学科を対象とした「医療機関等説明会」を実施した。

各学科の特色にあわせた専門職の話だけではなく、専門職業人である前に社会人としてどうあるべきか、現在どのような社会人像が求められているかなどを知るために、兵庫県雇用開発協会のキャリアコンサルタントによる講演を第1部として実施し、「関係機関等説明会」の第2部は各学科に分かれ、現場で活躍するフリーランスの歯科衛生士や、採用に携わる幼稚園・保

育所の施設長、兵庫県社会福祉協議会の方々の講演を実施し、「医療機関等説明会」の第2部は病院、企業（治験、臨床検査機器）の方々に参加していただき、学生が各施設の仕事内容、望まれる学生像についてブース形式で直接現場の方々と話を聞く機会とした。

専門職としては様々な知識・技術を身につけてきているが、一人の社会人としてのマナーや資質向上に向けてキャリアコンサルタントの講演を聴くことで、改めて考える機会としている。

口腔保健学科は、開設以来まだ卒業生を輩出していないため、近隣地域で活躍するフリーランスの歯科衛生士の方々を招き、専門職として社会に出るとはどういうことか、などフリーランスで仕事をしている方ならではの仕事に取り組む姿勢等について厳しい話も聞くことができた。

幼児教育学科は、施設長等の職員を管理する側からの、現場で要求されている資質や学生時代に是非身につけておいて欲しい知識・技術等、就職活動を行うに当たっての有効なアドバイスを聞くことができた。



写真3 関係機関等説明会

医療検査学科及び看護学科では、計17施設から専門職管理者や採用担当者を招き、ブース形式での説明会を実施したが、両学科は今年度卒業生が出ないということもあり、具体的な就職先を決めることが本旨ではない。施設ごとにある違いや特徴を知り、直接担当者の話を聞くことで将来の進路決定に繋げる指針とする。



写真4 医療機関等説明会

(iv) キャリアガイダンス

キャリアガイドセミナーは具体的な進路決定、就職

活動をにらんだ就職支援事業であるが、キャリアガイダンスは全4学科の新入生を対象とした事業である。入学時にそれぞれの専門職に対して持っている意識の基盤を固め、将来専門職及び社会人として持つべき責任感の向上を目指す。

なおキャリアガイダンスは全4回のシリーズで通年に渡り実施し、メインテーマは「命の大切さについて」とした。

第1回は保健科学部医療検査学科の野村秀明教授が国境なき医師団に参加し、過酷な環境下で医療活動を行ってきた経験を基に講演会を実施した。

状況や立場は違っても専門職業人としてそれぞれが扱う『命』について考えるきっかけを与える機会となり、これから学生生活をおくる上での目標や、勉学への意欲向上へとつながった。



写真5 講演会

第2回は、第1回目の講演会の内容を受け、全4学科の学生がそれぞれの立場でどのような『命』についての意識を持っているのか、どのような問題意識を持っているのかなどについて「今、一番大切にしたいこと」をテーマにグループワークを行った。

それぞれ目指す専門職の違いから生じる、異なった視点を共有し、論ずることで『命』に携わる職業を目指す学生にとってコミュニケーションの大切さとともに将来の目標を認識する機会となった。



写真6 グループワーク

(2) 支援体制の充実

前述しているキャリアガイドセミナー及びキャリアガイダンスの実施には卒業生及び専門職業人、有識者の存在が不可欠である。そこで、講師として招く本学の卒業生及び専門職業人、有識者をキャリアサポーターとして登録を要請する。学生が目指す専門職の現場で活躍している卒業生の知識と経験は学生にとって非常に貴重であり、有益な情報である。このキャリアサポーター登録者を充実させることで、学生に対して、専門職はもちろん、実社会と触れる機会を増やすことが可能となる。

(3) 本取組の実施体制

キャリアガイドシステムを適切に運用するに当たり、神戸常盤大学及び神戸常盤大学短期大学部の各学科の教員と事務職員により構成するキャリア支援委員会を組織し、各種事業を推進する。また、各学科には担当の教員と専門部署であるキャリア支援課員で構成される就職委員会、資格取得に向けた支援を行う国家試験対策委員会が存在している。これらの3組織が密に連携をとり、進路決定及び資格取得に向けての支援体制を充実したものにする。

また、キャリアサポーター登録者を充実させるために、本学同窓会とも連携をとり、卒業生への趣旨説明、登録要請を実施していく計画である。

5. 本取組の評価体制・評価方法

取組は年度ごとにキャリア支援委員会及び就職委員会、国家試験対策委員会の中で就職内定率、国家試験合格率等具体的な数字を基本に評価を行う。これらの詳細を分析し、教授会において報告し、問題点・改善点を明確にする。

また、キャリアガイドセミナーやキャリアガイダンスを実施した際に学生からとったアンケートの内容を精査し、取組全体の改善につなげる。

これらの要素を次年度以降の計画にフィードバックさせ、学生に対するより効果的な就職支援体制のPDCAサイクルの確立を図る。

6. 本取組の実施計画等

本取組の2010(平成22)年度の主な実施計画は以下のとおりである。

(1) 就職支援事業の実施

(i) 「歯科衛生士の話を聞く会」

2010(平成22)年現在、口腔保健学科は卒業生を輩出していないため、近隣地域で活躍している歯科衛生士を講師として招き、学生の進路決定についての展望を提示する。

(ii) キャリアガイダンスの実施

通年で実施しているキャリアガイダンスの第3回、第4回を実施する。

第3回は、第2回で行ったグループワークの発表を行う。自グループの意見をまとめ、他のグループの意見を聞くことで、周囲と自身の考えの相違を知り、互いを認めることで、自分の足りないものを見つけることができる。

第4回は、テーマである「命の大切さについて」に基づき、白血病という大病を乗り越えて、現在も柔道に挑戦している23歳の若き体育講師を招き、その経験から語られる命の尊さについて聞き、考える機会をとす。将来、専門職として『命』を扱うことについての意識向上の一助となることを期待する。

(2) 支援体制の充実

(i) 新規就職先の開拓

本取組の趣旨に沿って、地方をはじめとする新たな地域、新たな業種の情報を把握することで、学生が希望する進路の選択肢の幅を広げることができる。

また、教職員が学生に対しより適切な支援ができるように資質の向上を図る。

(ii) 卒業生に対するキャリアサポーター登録要請

キャリアガイドシステムの支援を受けた学生がキャリアサポーターとして登録することで、本学の人的資源価値を高め、今後のキャリアガイドシステムのさらなる発展につなげる。

(3) 財政支援期間終了後の展開

キャリア支援委員会によって事業内容の修正・改善を行い、キャリアガイドシステムによる就職支援体制は継続して行っていくこととする。

また、医療検査学科及び看護学科については2011(平成23)年度に初めての卒業生を輩出することとなるため、より発展し、充実した事業が必要となってくる。

全学的な取組として情報・経験を蓄積し、有効な学生支援体制を整備していきたい。